

「センサー」

小松電機産業社長

小松 昭夫

地球・人類の未来のために 「自動制御システム」を極める

INTERVIEW 2012

小松電機産業は、高速シートシャツ 御監視システム『やくも水神』の開発
ター『門番』そして、集落排水自動制 で知られるベンチャー企業である。



社長の小松昭夫は一九四四年、宍道

湖を望む島根県八束郡八雲村で生まれ
た。家は代々続く地主である。地元、松
江工業高校卒業後、佐藤造機(現・三菱
農機)に就職、その後、設計事務所、商
社などを経て、七三年小松は独立する。

社屋は自宅の納屋、ワゴン車一台の
出発だった。当初は弟と二人で取水ポン
プの修理などをこつこつと請け負って
いた。社業発展のきっかけとなったのは
高速シートシャツター『門番』である。

工場を車両が通過するたびにセンサ
ーが感知し、瞬時に巻き上げられるこ
のビニール製のシャツターは、防塵、
防風、防寒性に優れている点などが評
価され、工場などに累計六万台以上を
売った大ヒットとなった。小松電機産業
は一躍業界の注目を集める存在となっ
たのである。

そして九二年、小松電機産業は『や

くも水神』を開発、発表する。このシ
ステムは、地域に点在する浄水処理施
設を通信回線ネットワークで結び、管
理機関に設置したコンピュータで、各
施設の流量、残留塩素、濁度などのデ
ータを一括監視、管理するもの。

従来、個々に行われていた浄化施設
の運転・維持管理を集中管理へと移行
させることによって、技術者不足も解
消、なにより実態が「藪の中」だった
管理をオープンにすれば、維持管理の
不備によって浄化施設が単なる尿尿希
釈施設になってしまいかねない危険も
大幅に減る。

汚水を浄化し、地球環境を守る。水
質汚濁が進む宍道湖を見つめて育った
小松だからこそその製品である。

「私はエンジニアです。エンジニアは
目的を具現化するための明確な目標を
定め、物事を論理的に組み立て、考え

る。行き詰まったときにハッと新しい
発見がある。そこからまた論理が進む。
それがいわばエンジニアの感性なん
ですね」

このエンジニアの感性で、回分式活
性(浄化)汚泥法」の下水処理を提唱
する科学者の岸博の指導を仰ぎ、小松
は九四年には高度処理(脱リン、脱窒
素を目的とした水処理自動制御システ
ム「ニューやくも水神」、さらに機能を
高めた「パッケージやくも水神」、など
を発表、内外で高い評価を得ている。

「私は協調はします。けれど妥協はし
ません。協調というのは、ある目的が
あって、それを普遍化するためのプロ
セスですが、妥協は違う。ただ目の前
の人と仲よくするためとか、もめ事を
を避けるためとか、逃げ以外の何物で
もなく、感性の退化と論理思考回路の
行き詰まりが生じるだけです」

『やくも水神』システムは、東南アジ
アなど、近隣諸国からも注目を集めて
いる。ローカルからグローバルへ。「妥
協はしない」という社長のもと、小松
電機産業は成長を続けている。また、
小松はHNS(人・自然・科学)研究
所を社内機関として設立、「人と水」の
シリーズを手がけたり、「人の縁と感
謝・戦争の記念博物館」「未来を拓く研
究所」の建設構想を提案するなど、人
の「心」に触れる活動にも熱心だ。

「自然の風は、黙っていてもいつかは
静まります。けれど、人間の社会に起
きた風はそうはいかない。それなりの
手を打たなければ社会は崩壊する。ま
た、企業はこの社会で生かされている
存在です。社会がひずれば企業にもひ
ずみが出ないはずはないですからね」
地球の未来のため、人類の未来のた
めと小松は語る。

「おもしろおかしく、楽しく、愉快的な
社会を作るために必要とされるのは、
金儲けだけを目的とする起業家ではな
く、社会の変革を志す本物の事業家
です。人間の可能性は、人がつづしてい
るのではなく、自分自身がつづしてい
るんです。自分の人生、身に降りかか
ることはすべて受け止め、逃げない。
これが私の生き様です」(土屋美絵)